

21世紀水倶楽部だより

発行：特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部
発行者：亀田 泰武
編集：特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部 広報担当
〒171-0011 東京都豊島区目白2-1-1
URL <http://www.21water.jp/>
E-mail info1@21water.jp

第30号 2014年1月7日号

私のNPO等研究会活動

理事 中西正弘

私は21世紀水倶楽部を含めいくつかの上下水道関係のNPO等の研究会に入っています。日本水道新聞社勤務当時やその後、取材対象で情報収集として、また付き合いで誘われて入会したものです。これらの研究会のいくつかは上下水道事業の支援活動を主な目的にし、様々な活動を行っています。



しかしながら、上下水道事業を支援するといっても、その活動はなかなか難しいものがあり、またどの程度支援の役に立っているか、はっきり断定しにくいところもあります。ややもすれば、仲間内の沙龙的な活動になりがちですが、外部に向けて、小中学生や一般市民を対象に事業の重要性の広報等、立派な活動を展開している研究会もあり、その会の担当者には、そんなに積極的でない一会員としては頭が下がる思いであります。

21世紀水倶楽部には、10年前、日本下水道事業団の霊南坂宿舎で開催された設立總會の時、取材に行き、「下水道事業を支援する初のNPO研究会発足」と紹介し、その時、中川幸男事務局長（当時）に誘われ、会員の皆さんは知っている人ばかりなのですがすぐ入会し、楽しい研究会となりました。新聞の編集にも役立たせてもらいました。2年前、水倶楽部企画の「古代ローマ上下水道遺跡探訪の旅」に参加したのはよい勉強になり、別の研究会から「いいところに行った。会報に頼む」といわれ、探訪記を寄稿しました。

水倶楽部において、最近は専ら後方支援（懇親会担当）をやらせてもらっています。講演会で皆集まってもそのまま解散では、会員間のコミュニケーションが図れず、会を発展させるには懇親会は不可欠と考え、こちらを積極的に活動しています。回を重ね

ると、一人千円の参加費に見合う調達がうまくなり、最近では最初から役割分担に組み込まれるようになりました。

水倶楽部の主要活動場所は下水道機構の会議室です。会議室を格安で貸してくれ、懇親会もできるのは他にありません。現在活動できているのは下水道機構のおかげです。先日、懇親会の後片付けがきちんとできていないとお叱りを受けました。今後、後片付けをちゃんとやらないと会議室を貸さないということです。そうすると大変です。水倶楽部は環境問題の研究会です。ゴミの分別等始末もその一つです。後片付けをしっかりとやりましょう。

研究会活動は無理をせず、楽しんでやるのが大事と思い、取り組んでいます。

2013年度活動報告

資源活用型下水道システム部会研究集会報告

副理事長 清水 治

ディスプレイ部会からさらに活動範囲を広めるために「資源活用型下水道システム部会」と名称を変更した第一回研究集会で、「再生可能エネルギーの活用現場をめぐる」をテーマとして、11月21日金曜日13:30より65名の参加者で開催した。



理事の栗原秀人の司会のもと亀田泰武理事長の挨拶のあと、①国土交通省国土技術政策総合研究所下水道部・森田弘昭下水道研究官より「下水道は資源再生させる力を持っている」をテーマに、成熟した下水道において、人口減少・少子高齢社会での下水道の

岩手県大槌町での活動（3）

林 正生



役割を担う一つとしてディスプレイを取り上げ、平成12年度に国土交通省と北海道・歌登町（現枝幸町）が実施した「ディスプレイ導入社会実験」の追跡調査の報告があった。今後のディスプレイの課題としては、廃棄物分野への働きかけを行い、その上で廃棄物分野の連携による環境評価が必要、とのコメントがあった。

続いて②横浜市環境創造局・小浜好一下水道施設部長より「横浜市下水道事業における再生可能エネルギー利用の取組についてー固定価格買取制度導入（FIT）ー」をテーマに、横浜市下水道処理施設と下水道事業の紹介のあと、具体的に、北部第二水再生センター・北部汚泥資源化センターの発電設備と隣接する鶴見工場のゴミ発電設備との電力のやり取りで、下水処理に不足する電力はゴミ発電から補い、余剰電力を39円/kwhでFITで買い取ってもらい、この売り上げた収益は全て維持管理費用に当てるとの説明があった。

続いて③珠洲市生活環境課・女田良明下水道係長より「珠洲市バイオマス処理施設の現状について」をテーマに、珠洲市の概要と珠洲市のバイオマス処理施設の話があり、下水汚泥、農業集落排水汚泥、浄化槽汚泥、尿尿、生ゴミを中温メタンで減量処理し得られた汚泥を肥料化して「為五郎」として販売しているとの報告があった。

最後は④前佐賀市上下水道局下水処理センター・山口徳雄センター長より「地域密着した資源循環型下水処理のあゆみ」をテーマに豊かな有明海や佐賀市下水処理場の地域資源活用下水道システムの具体的な取り組みの話があった。下水処理水は海苔の窒素源とし、発生する汚泥は高温コンポストで全て緑農地還元するとの報告でした。この後の総合討議では「下水道はゴミ、尿尿、廃棄物等を含めて全てを受け入れできる地域最適化の「マンパワー」となるよう活動していこう」ということになった。

寒さが厳しくなる中、皆さんお元気でしょうか？

平成24年9月に東北へ来て、今回で2回目の冬を迎えます。

今回紹介する活動は、12月14日（土）に開催した三陸沿岸の自治体職員有志が共通課題を勉強し合う「三陸沿岸交流会」です。

大槌町三陸花ホテル「はまぎく」で、テーマは「三陸にどのように人を呼び込むか」で行いました。

交流会は、プロパー職員主体を目指し、震災後の平成24年に始まり、これまで、宮古市、釜石市、大船渡市、山田町で開催され、観光やまちづくりについて意見を交換してきました

今回、大槌町では初めての開催でした。

参加者は、大槌町職員のほか、宮古市、山田町、釜石市、大船渡市、陸前高田市等から若手主体が約60名参加し、三陸沿岸の被災地を活性化させることを語り合いました。

この日の交流会では、「ホテルはまぎく」の総支配人立花和夫さん（56）が、ハマギクの花言葉に関連し『花言葉「逆境に立ち向かう」を胸に』と題して講演されました。



ホテルが被災してから今年8月末に再開するまでの経緯や冬の三陸観光振興を目指した「陸中海岸魚彩王国」の取り組みについて語られ、「自治体の垣根を越え、さらに行政と民間の垣根を越えて協力し合うことが重要」と指摘されました。

その後、各自治体が観光への取り組みについて発表をしました。

宮古市は、こけし作りや映画祭、大槌町は、おらが大槌夢広場のメンバーによる復興ツーリズム、釜石市は、橋野高炉跡のユネスコ世界遺産登録、大船渡市は、東京タワーでのさんままつり、陸前高田市は、「奇跡の一本松」について説明を頂きました。



さらに、8班に分かれたワークショップでは、交流人口をどう増やしていくかを論議し、その結果を未来新聞として作成し、発表をしました。内容は、「スポーツや学習合宿を呼び込む」「全国のゆるキャラ大運動会を開く」等の新聞記事が出来ました。

各班からの発表後、立花さんの講評は、「夢を語って頂いた。可能なものは具体化し、三陸の魅力を高め発信していきたい。」と締め括りの意見を頂きました。

沿岸自治体は、互いの連携を確認しながら、連帯感に満ちたワークショップとなりました。

今回の交流会は、三陸沿岸職員の皆さんの笑顔を拝見でき、素晴らしい交流会を開催できたとおもっています。また、東北の沿岸部には、素晴らしい多くの職員がいると実感しました。

次回につづく

編集幹事のあと整理

- 巻頭文は中西理事の当 NPO のいきさつから現在まで。中西氏は NPO 発足時からのメンバーで、昨年 6 月の総会で理事に就任されました。

- 11 月 21 日開催の研究集会「再生可能エネルギーの活用現場をめぐる」の報告文を清水副理事長からいただき掲載しました。ディスプレイ部会から範囲を拡げて「資源活用型下水道システム部会」と名称を変更した第一回研究集会でした。
- 会員だよりの連載もの、林会員の「岩手県大槌町での活動」は 3 回目。「三陸沿岸交流会」というものがあるのですね。ソフト面での復興が進んでいるようです。
- 会員だよりの連載もの、内田会員のロサンゼルスシリーズは本号休載です。ご本人からいただいたメールによると、現在、病气療養中とのこと。早くご快癒いただき、再掲載をお待ちしています。
- 会員だよりのコーナーへの投稿を熱望します。投稿時期はいつでも。直近の号に掲載します。投稿要領などは望月から毎回お出ししている原稿依頼メールをご覧ください。

編集幹事・望月



秩父鉄道（清水治氏提供）